



KANSAI
UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2020

vol. 34



学生エンゲージメントの視点から 大学を問う

教育推進部教授 山田 剛史



2020年10月に教育推進部に着任しました山田剛史（やまだ・つよし）です。大学院修了後、島根大学、愛媛大学、京都大学と3つの国立大学で15年半に亘って、教育開発（研究・支援・養成）に携わってきました。本学では、教育開発支援センターにおけるFD活動や教学IRプロジェクトにおけるIR活動、初年次教育を中心とした共通教養教育の推進などに従事いたします。以後、どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は、高等教育開発（質保証・大学評価、教学IR・学習評価、授業デザイン・アクティブラーニング）と、青年心理学（大学生論、自己形成論、学校から社会へのトランジション）です。学生が大学から社会へ、青年から大人へと移行し、彼らが健康で幸福に生きるため、そして、新たな時代を創り出すために、大学教育

はどうあるべきかを探究しています。

現在の高等教育においては、(教員が)何を教えるかから(学生が)何が出来るようになるかへと教授・学習観の転換が求められています。同時に、学習成果を基盤とした教育(Outcome/Competence-Based Education)が推奨されています。簡潔に表現すれば、期待される学習成果(Intended Learning Outcomes)を明確にし、学生がその学習成果を獲得できるよう教育課程や授業を設計・実施・評価・改善する(PDCAサイクルを回す)ということになります。

大きな方向性・考え方については賛同しますが、過度な成果主義は教育の本質を見失いかねず、より過程(プロセス)を重視した教育が必要だと考えています。そこで、私が着目している概念が学生エンゲージメント(Student Engagement)

です(詳しくは、山田 2018 など)。これは、学生の成功(Student Success)のために、学生・教員双方が「認知(頭)・行動(体)・情緒(心)」で教授・学習に関与するということです。たとえ仕組みや制度が整備されていても、関与が伴わなければ意味がありません。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう中、遠隔授業が急速に導入され、その是非が問われています。確かに一定の教育効果を得ることは可能かもしれません。しかし、大学とはそれだけの場ではありません。キャンパスや教室という空間の中で、人と人が出会い、様々な経験をし、対話を通じて学び、大人へと成長していきます。「関与」は彼らの学びと成長を支える重要な営みです。関与の視点から、改めて大学という時空間の意義・役割について探究していきたいと思っています。

活動報告

第23回 関西大学FDフォーラム

日程：2020年6月13日(土)

「遠隔授業のデザインを考える一人の縁を描く授業」を開催しました

6月13日(土)に第23回関西大学FDフォーラムを開催しました。Zoomウェビナー形式で開催し、参加者は約340名でした。

今回のFDフォーラムでは、「遠隔授業

のデザインを考える一人の縁を描く授業」をテーマに、本学の対応と現状だけではなく、他大学の先進的な取り組みに関する情報をできるだけ多くの大学間で共有することを目的に開催しました。

関口教育開発支援センター長の司会の下、副学長による開会挨拶・本学の取組・趣旨説明があり、学内からは3件、学外からも3件の事例報告がありました。



講演の様子(山本教授)

- (1)「KU-DWOT (Kansai Univ. Designing Workable Online Teaching) チームで展開する外国人教員対象のオンライン授業化の取組報告」
(関西大学教育推進部教授 山本敏幸)
- (2)「コロナ禍においてオンライン授業を受ける学生に向けた学習支援」
(関西大学教育推進部准教授 岩崎千晶・関西大学教育推進部特別任用助教 多田泰紘)
- (3)「LMS・Zoom とともに経験したことのない者が遠隔授業でグループワークを展開してみた」(関西大学教育推進部教授 三浦真琴)
- (4)「インストラクショナルデザインを活用したオンライン授業の設計」(東京都立大学大学教育センター教授 松田岳士氏)
- (5)「遠隔授業がつなぐ大学の学びのり・デザイン:デジタル・ペダゴジーへ」(金沢大学国際基幹教育院准教授 杉森公一氏)
- (6)「コロナ禍における大学の挑戦と課題」(大阪大学全学教育推進機構教授 村上正行氏)

今回のFDフォーラムのポイントは、遠隔授業とは、単に平時に行っていた授業をそのままデジタル・クローン化することが究極の目標ではないという点です。また、成功事例を列挙することでもありません。非常時での授業運用の過程で可視化された

「平時での授業の問題点・課題点」について大学関係者で確認し、遠隔授業ならではの長所を活かして、学内外の教員が協働で一丸となって真摯に取り組む未来型のFDの姿が教員側から芽生えてきたことがポイントです。コロナ禍での教員達の遠隔

授業の取り組みを通して、未来社会を生きる世代への教育のフューチャーデザインについて再認識できたFDフォーラムでした。

フォーラムの内容は教育開発支援センターのホームページから視聴ができます。

(教育推進部教授 山本敏幸)

関西大学FDセミナー

日程：2020年7月17日(金)

「コロナ禍の授業実践をふりかえり、遠隔授業の教育方法・評価方法を考える」を開催しました

7月17日(金)に関西大学FDセミナー「コロナ禍の授業実践をふりかえり、遠隔授業の教育方法・評価方法を考える」を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各大学においてインターネットを活用した遠隔授業が行われています。本学においても、春学期中は遠隔授業の継続実施を決定しました。全学的な遠隔教育の実施が急遽決まり、先生方は様々なアイデアを駆使して、遠隔教育を推進して参りました。

春学期の終了を目前にした時期だからこそ、改めて「遠隔教育における教育方法を振り返り、評価方法について知見を深め、意見交換をすること」を目的に本セミナーを開催しました。はじめに安藤輝次(関西大学文学部教授)より、「遠隔授業

における評価」と題して、Zoomで授業を行った際の工夫や評価の方法について紹介しました。次に、山崎直樹(関西大学外国語学部教授)より、「遠隔授業の外国語(中国語)教育で何をどう評価するか」と題して、外国語科目を遠隔授業するうえで、現れた問題点やその問題点に対する解決法を紹介しました。次に、池田勝彦(関西大学化学生命工学部教授)より、「理系授業における遠隔授業」と題して、実際に授業で使った動画作成ソフトを用いながら、授業実践や評価方法等を紹介しました。次に、関口理久子(関西大学社会学部教授)より、「心理学実験における遠隔授業」と題して、ゼミでの心理学実験において、本来心理実験室で行うものをどこまで遠隔でこなすことができるのかを紹介しました。最後に、岩崎千晶

(関西大学教育推進部准教授)より「グループプレゼンを取り入れた初年次教育における遠隔授業」と題して、対面での授業との比較を交えながら、初年次教育の遠隔授業の方法をお話しました。当日は、視聴者の方々からのたくさんの質問にも回答しました。本セミナーは教育開発支援センターのホームページから見逃し視聴が可能です。ぜひご覧ください!

(教育推進部准教授 岩崎千晶)



FDセミナーの様子

第24回 関西大学FDフォーラム 「ニューノーマルに対応した新しい授業形態の可能性 ー関関同立の教員による提案ー」を開催しました

日程：2020年11月7日(土)

11月7日(土)に、第24回関西大学FDフォーラムを開催しました。今回は「ニューノーマルに対応した新しい授業形態の可能性ー関関同立の教員による提案ー」をテーマに、山田礼子氏(同志社大学社会学部教授)、中野康人氏(関西学院大学社会学部教授)、蒲生諒太氏(立命館大学教育開発推進機構講師)、本学からは三浦真琴(関西大学教育推進部教授)が登壇いたしました。各氏から、それぞれの所属大学における春学期の遠隔授業の取り組み、ならびにその取り組み等に対する各種アンケートの結果についての報告がなされました。

遠隔授業に関する学生の意見では、概ね、どの大学でも、通学時間がなくなること、自分の生活のリズム等に合わせて学習でき

ること、反復学習により理解が深まることなどが利点として挙げられる一方、課題の量が膨大であること、課題等の指示が分かりにくいことが学習面に関する欠点として挙げられていました。このほかに、友人作りが困難であることなども問題点として指摘されていました。

山田氏から朝日新聞社と河合塾による共同調査の結果、遠隔授業が授業改善につながったと捉えている大学が52%と過半数を占めていることが報告されましたが、秋学期には学生が示す問題点を解消するべく努める必要があるようです。

秋学期は四大学とも対面授業と遠隔授業を併用して教育活動を展開しています。ニューノーマルに対応した授業形態の模索はこの先もしばらく続くと考えられますが、山田氏から指摘があったように、これを機にCBE(Competence Based Education)を前提とした学習成果の枠組みを開発していく必要があると思われます。

(教育推進部教授 三浦真琴)



FDフォーラムの様子

FD相談会 「オンデマンド配信授業」実施に関する相談会を開催しました

日程：2020年9月9日(水)、11日(金)、16日(水)

2020年度秋学期、本学では全学的に対面授業が再開されましたが、履修人数の多い科目や授業担当教員による申請のあった科目は、オンデマンド配信による授業が実施されています。そのため、教育

開発支援センターでは、標題の相談会を9月9日(水)、11日(金)、16日(水)の3回実施し、それぞれの参加者は16名、16名、10名でした。春学期に遠隔授業を実施された先生方も多く、相談会では、各種

ツールの使い方等の基礎的な内容よりも、それらのツールを活用した授業の展開に関する議論が中心であった点が印象的でした。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也)

「交渉学～丹波の未来を創造する～」の研修を実施しました

日程：2020年8月19日(水)

8月19日(水)に、丹波青年会議所のJCメンバー(50名)を対象に、6つのグループに分かれ、「交渉学～丹波の未来を創造する～」をテーマに、交渉学について深く学ぶ研修を実施しました。

交渉学の実践として、今現在丹波のコミュニティに生きる自分達と10年後の未来社会に生きる「未来の自分達」の両者にとってWin-Winな社会の創生について、SDGsの考え方と交渉学の学びを通してセンスメイキング・シナリオプランニングを行いました。

講師は山本敏幸(関西大学教育推進部

教授)・奥貫麻紀(関西大学教育開発支援センター研究員)が担当しました。また、各グループのディスカッションのファシリテーターとして、日頃交渉学の授業でLAを担当している学生10名が参加し、これからの丹波の地域社会の担い手となるリーダーたちにファシリテーション力を発揮しました。

本研修はすべてオンラインビデオ会議形式で実施し、ICTツールを活用して、

参加者全員が「同じページ」で学びを深める工夫をして実施しました。

(教育推進部教授 山本敏幸)



研修の様子

教育開発支援センターからのお知らせ

アカデミックスキルワンポイント講座を実施しました

ライティングラボでは、アカデミックスキルワンポイント講座(大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを、昼休みの30分間で身につける授業外講座)を開催しております。2020

年度秋学期は、全学年向けとして表の通り計11回開催いたしました。講座の際に収録した動画及び資料は、春学期開催分も含めライティングラボHPの「ワンポイント講座」

(<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/index.html>)にアップしてあります。ぜひご活用ください。
(ライティングラボアカデミック・アドバイザー 藤田里実)

日程	テーマ	講師
9月25日(金)	資料の探し方	藤田里実
10月2日(金)	論文の読み方	藤田里実
10月9日(金)	要約のコツ	藤田里実
10月16日(金)	文献レビューとは	藤田里実
10月23日(金)	話を聞くコツ・質問するコツ	藤田里実
10月28日(水)	初めてのアンケートの取り方	佐藤栄晃

日程	テーマ	講師
10月30日(金)	インタビューの方法	藤田里実
11月9日(月)	スマホは学習ツール! Office365 今すぐ徹底活用術	山本敏幸
11月11日(水)	アンケート結果の分析の考え方(経験者向け)	佐藤栄晃
11月18日(水)	データの「平均」の見方	佐藤栄晃
11月25日(水)	グラフの読み解き方	佐藤栄晃



ワンポイント講座の様子

ライティングラボでZoomによるオンラインチュータリングを始めました

ライティングラボでは、学生の皆さんのレポートやゼミのレジュメ、発表原稿、卒業論文などの文章作成のサポートを行っています。チューターとの会話を通して自ら課題に気付き、解決方法を模索する力が養われます。まだ文章を作成し

ていない段階から完成後まで、文章作成のあらゆる段階でアドバイスを受けることができますので、ぜひ活用してください。対面でのサポートも行っていますが、2020年度秋学期よりZoomを使ったオンラインサポートを始めました。学外か

らでも質問・相談ができるのでおすすめです。

詳しくはライティングラボウェブサイト www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/ をご参照ください。

(教育推進部特別任用助教 多田泰紘)

書籍紹介

『大学での学び—その哲学と拡がり—』 田中 俊也(著)

「大学での学び」に要求されるものは、小中高までの児童・生徒に要求されるものとは明らかに異なっている。本書ではその本質的な特徴を「学びの哲学」として捉え、問題解決、協同、創造、感動をキーワードにして詳述した。その上で、実際にゼミ

で学び、現在はさまざまな領域で活躍している18名の卒業生たちの「実践」をエビデンス・データとして生の声で紹介し、「大学での学び」がどのように拡がっているかを検証した。大学教員と学生の生態学が展開された類書のないものとなって

いる。ともすれば知識・スキルの獲得にとどまってしまう恐れのある大学教育、とりわけ昨今の遠隔教育という方法をとらざるを得ない状況において見逃される危険性のある、こうした大学での学びの哲学は一考に値するものだと考えられる。



『教育工学における大学教育研究』 日本教育工学会(監修)、村上 正行(編著)、田口 真奈(編著)

大学に対する社会的な要求は年々高まっており、大学教育に関心が集まるようになった。本書は、大学教育を改善することをめざした実践研究に焦点をあてたものである。大学教育やFDといった新し

いフィールドにおいて、これまでどのような実践研究が積み重ねられてきたのか、何を明らかにし何が課題として残っているのかを網羅的に紹介する。対象領域のサーベイを行い、高等教育独自の文脈を

明確化し、具体的な研究の目的とその結果を紹介することを目指した。

(教育推進部准教授 岩崎千晶が第14章「ラーニング・コモンズ」を執筆しております。)



『教育効果を可視化する学習科学』 ジョン・ハッティ(著)、グレゴリー・イエーツ(著)

教師と生徒に必要なのは、教授方法や学習環境だけでなく、「学ぶことの本質」への理解である。共に学習者となり、互いの視点で学習過程を見られるかが鍵となる。メタ分析データと学習科学の知見を

照合し、31のテーマで、学びの成立と促進の条件を可視化する。学びを最大化する授業の実現と教育実践の見つめ直しに向けて。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也が24章「自身一表にでてこないその3つの水準」、25章「自己高揚と「バカなやつ」ともバカなやつ」の効果」の訳者となっております。)



From CTL事務局

今春学期は、新型コロナウイルスの影響を受けて、遠隔授業導入に係る教員へのFD(説明会実施、マニュアル整備等)や学生向けのサポート業務に忙殺された。ただ、教育推進部の教職員が一丸となり、この緊急事態に

臨んだ日々は今振り返ると非常に充実した日々でもあった。

秋学期については対面授業を再開しつつ、これからの授業形態を含めた大学の方針が求められており、大学教育が大きく変わらざるをえない過渡期に教育開発支援の業務に関わっていることに喜びと責

任を感じる。

FD活動支援という本来業務はもちろんのこと、先行きが見えない世の中だからこそ、一人一人の学生に積極的に寄り添い、今後の学生生活を少しでも前向きに送ってもらいたいという想いを新たに、これからも教育改善・改革をサポートしていきたい。(土)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514

www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2020年12月16日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター